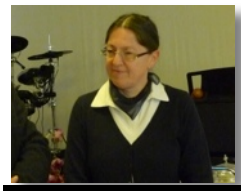
スイス日本語福音キリスト教会

JEGニュースレター143号

www.jegschweiz.com　　２０１４年４月３０日発行

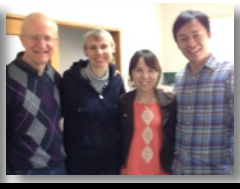
小さな証

もの静かで自らを余り語らないルツ夫人に、生い立ちから、マイヤー牧師との出会い、信仰生活を綴っていただきました。



”里がえり”

４月１日から、第２の故郷に”里帰り”中のゲルスタ前牧師ご夫妻は仙台に新婚ほやほやの菊地兄姉を訪問されました。



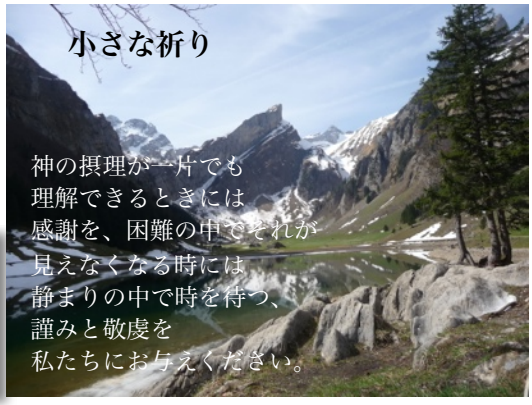
イースター礼拝

スイスJEGでは、暦より一週間早く、４月13日にイエス様の復活を祝い、神様の愛の力を体験いたしました。

SLIM 証と感想

英国で４年前まで開かれていた欧州青年リトリートの精神を引き継ぎ、北イタリア・ベルガモ郊外で３度目のSLIMが開催されました。

小さな祈り



神の摂理が一片でも
理解できるときには
感謝を、困難の中でそれが
見えなくなる時には
静まりの中で時を待つ、
謹みと敬虔を
私たちにお与えください。

イエスは弟子たちに言われた：いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。　ヨハネ14,19

Der Herr ist auferstanden!
Er ist wahrhaftig
auferstanden und mitten
unter uns als die a l l e s
bezwingende L i e b e !

この宣言の言葉をもって、復活のイエスを信じる全世界の兄弟姉妹へ、スイス・アルプスから心からのご挨拶を送らせていただきます。

死を打ち破られた復活の主の勝利を喜び、約束された永遠の命により、私たちが日々強められますように。

SLIM特集

ちいさな証

あなたの道を主にゆだねよ

マイヤー・ルツ
マイヤー・マルチン牧師夫人

Befiehl dem Herrn deine Wege und hoffe auf ihn. Er wird's wohl machen. Psalm 37,5

Ich bin 1960 in Langenau in der Nähe von Ulm geboren. Mein Elternhaus war für damalige Verhältnisse ein größerer Landwirtschaftsbetrieb. Die Erzeugnisse von Äckern und Wiesen sowie etwa 50 Stück Vieh im Stall forderten den täglichen Einsatz aller Kräfte. Meine beiden Eltern waren Christen und gehörten als treue Mitglieder zur örtlichen Gemeinschaft. Durch das Beobachten meiner Eltern, wie sie ihren Alltag im Vertrauen zu Gott meisterten, wurde ich von klein auf in natürlicher Weise an ein Leben mit dem Wort Gottes und Gebet gewöhnt. Mein Tag war geprägt von der Schule am Morgen, dann der Arbeit auf Hof und Feld, und am Abend dann erst den Schulaufgaben.

Nach dem Ende meiner Schulzeit begann ich als Lehrling im Büro einer Baufirma vor Ort. Ich besuchte den örtlichen Jugendkreis und lernte auch, dass ich mit dem Glauben meiner Eltern allein noch nicht gerettet war. In dieser Zeit entschied ich mich, auch in meinem eigenen Leben Jesus Christus persönlich nachzufolgen.

Mit 19 Jahren, als meine Lehre bereits beendet war, hörte ich, dass die Liebenzeller Mission Mitarbeiter im Bereich der Verwaltung suchte. Wenn auch der Verdienst deutlich geringer ausfallen würde, wäre es doch ein schöner Dienst zur Unterstützung von Missionaren, dachte ich mir. Im Gebet wurde ich mir dieser Berufung klar und begann als Mitarbeiterin in der Verwaltung der Liebenzeller Mission. Ich verließ zwar mein Elternhaus, fand aber am neuen Ort eine gute Gemeinschaft im Jugendkreis. Etwa vier Jahre später wurde ich zusammen mit einem dortigen jungen Bibelschüler, Martin, in die verantwortliche Leitung des Jugendkreises gebeten. Durch das gemeinsame Dienen und Beten lernten wir uns näher kennen. So versprachen wir uns gegenseitig, ein Leben lang gemeinsam dem Herrn zu dienen.

Für Martin stand damals schon fest, dass er als Missionar zurück nach Japan gehen sollte. Im September 1985 reiste er schon vorweg. Ich kam dann im Januar 1986 auf dem Narita Flughafen an; für mich war alles neu in Japan. Anfangs forderte das japanische Sprachstudium meine Kräfte, und doch begann damit eine wunderschöne Zeit des Lebens in Japan. Unsere Hochzeit war im Juli 1986. Unsere drei Kinder wurden in Japan geboren. Ich bin sehr dankbar für die 13 Jahre Dienst, die wir zuerst in der Pionierarbeit auf dem Land in Ibaraki, dann in der Camp- und Seminar-Arbeit in Okutama tätig sein konnten.

Wenn ich zurückschaue, kann ich nur die wunderbare Führung und Bewahrung unseres Herrn erkennen. Ich bin überzeugt, dass auch der weitere Lebensweg in seinen Händen am besten aufgehoben ist! Voller Dankbarkeit möchte ich Gott die Ehre geben.

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。 詩篇37,5

1960年、私はドイツのUlm近くのLangenau町で生まれました。当時、実家は大規模な農業を営んでおりました。様々な種類の農作物や干草を栽培し、50頭ほどの家畜も飼育していたので、毎日山ほどの仕事がありました。両親は二人ともクリスチャンで、地元のGemeinschaft教会の熱心な会員でした。幼い頃より、神様により頼みながら生活する両親の姿を見て育ち、当然ながら、み言葉と祈りに基いた毎日を送ってきました。学校から帰るとすぐに、畑や畜舎での手伝いをし、宿題や学校のための勉強は夜になってからするのが日課でした。

義務教育の学校を卒業後、地元の建築会社の事務員になるための見習いに入り、教会の青年会にも通い始め、自分の親の信仰だけでは救われないということを学び、私は主イエス・キリストに従う決心へと導かれました。

1986年7月の結婚式、奥多摩

19歳で見習いを終了した頃、リーベンゼラ宣教団では事務員の募集をしていました。一般企業に比べ、お給料ははるかに低かったのですが、宣教師を支える立派な仕事だと思い、祈りのうちに主の召しを感じ、リーベンゼラ・ミッションの本部に勤めるようになりました。実家を離れることになりましたが、新しい地において青年会の良き交わりが与えられました。その4年後に、そこで神学生として勉強していた、同い年のマルチンという神学生と共に、青年会のリーダーを引き受けることになりました。共に祈り、ご奉仕する中で、次第にお互いのことを知るようになり、一生共に主に仕えることを約束したのです。

1989年、茨城県真壁町、田舎伝道

その時すでに、マルチンは宣教師として日本に戻ることが決まっており、1985年9月、私より一足早く日本に渡っていき、私は翌1986年1月に、成田空港に着きました。私にとっては初めての日本で、最初は、日本語の勉強で精一杯でしたが、とても楽しい生活が始まりました。同1986年7月にマルチンと結婚し、日本の地で3人の子供たちを授かりました。日本滞在は13年間にわたり、最初は茨城県の田舎伝道、その後は、奥多摩でのキャンプ伝道の御奉仕をさせていただき、心から感謝しております。

こうして振り返ってみますと、常に主なる神のすばらしい導きと守りがあり、これからの歩みも主にゆだねる事が、私にとっての最善の道であることを確信しております。心溢れる感謝をもって主に栄光を帰したい思っております。

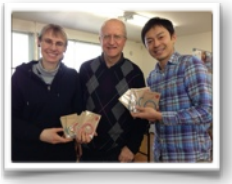
1、２０１４年のスイスJEGイースター礼拝は、教会歴より一週間早い４月１３日（日）に持たれました。礼拝に先立ち、CSによる讃美が行われ、可愛い振り付けと讃美に礼拝堂は笑顔と喜びで満たされました。

マイヤー牧師は、「復活したイエスを知る」をテーマに、ヨハネの福音者20章1-10および19–21節から、私たちの信仰の道を走る三つの段階（１、十字架への道を走る。２、開いた墓への道を走る。３、信仰の道を走る。）を身近な実例を挙げながら、解き明かされました。

CSの讃美ならびにイスター礼拝のショートビデオは以下のURLでご覧頂けます。https://www.youtube.com/watch?v=ATUKWbtasi8また、当日のマイヤー牧師の説教は、http://jeg.meielisalp.ch/でお聴き頂けます。

イースター礼拝／愛餐会でのスナップ

２、日本を訪問中のゲルスタ前牧師ご夫妻は、４月10日、宮城県利府教会で神学生菊地祥彦兄恵美姉を訪問され、旧交を温められました。その後、ゲルスタご夫妻は、東北の三陸海岸に旧友を訪れながら、かっての宣教地・札幌に向かわれました。菊地兄より、その様子を記すメールが届きました。



ゲルスタ先生とウェンディさんに再会でき、心から感謝しています。ゲルスタ先生は、2009年6月に僕をイエスさまを救い主として信じる信仰告白に導いてくださいました。2010年2月以来の再会で、今回は妻の恵美も紹介することができ、主にあって祝福された時間を四人で過ごすことができました。お二人とは、一緒に食事をしたり、利府キリスト教会やSHIZU革（利府教会で行っている内職支援プロジェクト）の工房に行ったりしました。

また、丁度お二人が宮城県滞在中にオアシスチャペルで佐藤彰先生の講演会があったのでお二人も参加されました。その際、婚約式と結婚式以来初めて教会に来た父とお二人が会って話すことができました。誘っても絶対に断ると思っていた父を教会に導き、思わぬ形でゲルスタ先生とウェンディさんを紹介する機会を与えてくださった主に感謝を捧げます。

菊地 祥彦

３、２０１４年３月２７日（木）～３０日（日）にイタリアのサン・ペッレグリーノでSLIM (Servant Leaders In Ministry) Conferenceが開催され、（子供たちを含む）次世代を担うキリスト者が約90名集いました。特別講師として中野雄一郎先生、斎藤篤先生をお招きし、【「愛を伝える人」～キリストを身にまとって～】というテーマのもと、豊かな御言葉の学び、祈り、交わりの時を持ちました。ホームページ www.slimconference.org

SLIM (Servant Leaders In Ministry) Conferenceは、次世代を担うキリスト者が、主への奉仕の働きのため、サーバント・リーダー(仕える者)として整えられることを目的とした三泊四日のリトリートです。

そのような「次世代リーダー」がキリストの体を立ち上げる「成熟した者」(エペソ4:12)となるために集い、励まし合い、共に学び、共に祈る場として用いられることを願い、始められました。今年で３度目となるSLIM14で与えられた

テーマは【「愛を伝える人」～キリストを身にまとって～】、主題聖句は【喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。ローマ12:15】でした。2014年3月27日（木）～30日（日）にイタリアのサン・ペッレグリーノで開催され、89人の方々（高校生以下13人、初参加46人、平均年齢36歳）が集められました。特別講師として、宗教を問わず世界中の人々に感動を与えてきた中野雄一郎先生（マウントオリーブミニストリーズ代表）、キリスト教系新興宗教団体から牧師になった斎藤篤先生（ケルン・ボン日本語キリスト教会牧師）をお迎えし、毛利陽子先生（ビーイングサポート・マナ代表）にスモールグループ講師として立っていただきました。

また大会テーマをより多角的に学んでいくために『欧州に於ける教会・集会の現状―バイブルスタディの現状』『健康な（SG）リーダー像』『牧師夫婦に聞く結婚のカタチ』『教会が加害者とならないために―健全な教会のススメ』のワークショップを行いました。夜には「賛美＆祈り」・「賛美＆証し」集会もあり、神様と、そして兄弟姉妹との豊かな交わりを通して、私達が「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」者につくりかえられていく事を証し、祈り合いました。遠方で祈りに覚えてくださった皆様、様々な事情で参加できなかった皆様のためwww.facebook.com/slimconferenceではSLIM14の写真や動画なども順次公開させていただく予定ですのでお楽しみにして下さい。また、来年のSLIM15は2015年4月9日（木）～12日（日）に同じ場所で開催される予定です。10月頃には正式な第一信を欧州の各教会／集会に発送させていただく予定ですので、ぜひお友達をお誘いあわせの上ご参加ください。皆様にお会いできることを楽しみにしています。

増谷啓（SLIM14実行委員長・シュトゥットガルト日本語教会伝道師）

４、オーニンガー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、パリ教会パルタージュ、イザール通信、在欧機関紙、夜越山庵の家月報、オリーブ山便り（イスラエルよりの最新情報）最新号が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。

感想と証

生まれ変わりの体験

津田和明
スイス・モルジュ家庭集会

SLIM１４に参加したきっかけは、ドイツ留学時代から懇意にさせて頂いてる、大会委員長の増谷さんに勧めていただいたことでした。出発直前の忙しさにかまけて、聖会の内容も大して確認せずになんとなく行ってみたいなという気持ちでの参加でした。

幼少期に母親が地元の教会でCSの教師をしていたのをきっかけに、幼児洗礼を受け教会に行っていましたが、その後いろいろあって小学校３、４年くらいまでは教会から遠ざかっていました。それから新しく赴任されてきた有名な牧師先生の就任を機に中学三年でスイスの高校に進学するまでは教会に通っていましたが、確固たる信仰と呼べるものを持てずにいました。

ヨーロッパに住み始めてかれこれ８年目になりますが、音楽家という仕事柄教会で演奏することが多く、イギリス、ドイツ、スイスでも実に不思議な出会いやきっかけで、教会の行事で演奏するお仕事の機会が絶えずあったりして、教会には不定期に足を運んでました。

そして、今回のSLIMカンファレンス、参加者の殆どが既に神様とともに情熱的な信仰生活を歩んでおられ、お祈りも賛美も、とても神様の愛に満たされたものだったのが初日にとても印象的でした。海外に住んでいる日本人が集まって、神様の御名を心から賛美し、兄弟姉妹のために心から愛を持って祈り、御言葉によって神の愛と聖霊に満たされて涙する、今までに体感したことのない不思議な体験でした。

神様の存在は音楽をやっているというのも手伝ってか、日々の生活で自然に受け入れていました。ですが、僕自身、常に自分の存在意義や存在価値、なんのために生まれてきたのか、など日々の中で終わりのない自問自答を繰り返し、心のなかに永遠に満たされないのではないかという思いを抱えていました。

SLIMでは各先生方のお話が特に素晴らしく、御言葉を自分の人生や苦しかった体験を通して伝えていただき、具体的な感触として魂の内側から熱いものによって満たされていくのを感じ、涙が止まりませんでした。並行して印象的だったのが、牧師先生方もお話しされながら、あるいは他の先生方のお話しをメモしながら、御言葉よって聖霊に満たされ涙されていたことです。それまでの牧師のイメージは、弱さを見せず、学校の先生のような感じだったので、それは特に印象的でした。

カンファレンスの中で何度かのワークショップやスモールグループ等を経て、自分が内側から変わっていくのを実感して、最後の夜の「賛美と証」集会で証しをさせて頂きました。最初はこの気持ちをどう伝えていいかわかりませんでしたが、次第に自分の中を満たしてくださっている神様の愛、御言葉、聖霊によって言葉が溢れだすようになり、それを自分で喋りながら涙が次々に溢れました。

美しいイタリア、サンペレグリノの地で、掛け替えのない信仰を共に歩む兄弟姉妹との出会いがたくさんあり、それぞれは離れて暮らしていても神様を愛し、イエス様を主として歩む気持ち、そして互いに祈り合う気持ちでいつも繋がっています。SLIMを経て、再びキリスト者として歩み初めるとても貴重な機会に導いていただいた恵みと、今回のカンファレンスを支えてくださった兄弟姉妹方に感謝しつつ、これからも「イエス・キリストを身にまとって」日々の信仰生活を歩んでいければと思っております。

御茶処の女将として

オルポ水脈
ヘルシンキ日本語聖書会

今年もSLIM14に「お茶処の女将」として参加させて頂きました。「一体、何ですか？それは？」と思われる方もいらっしゃると思います。SLIMでのお茶係という奉仕を、自分なりに、「どうしたら、ここに集まって来る人達が、もっともっと愛し合える様になるんだろう？」と考えた時、このカンファレンス全体の「居間」的スペースを作る事を思いつき、前回のSLIM13の運営委員にお願いして、開店（？笑）さて頂きました。

実は、隠れ人見知り（なかなか信じて貰えませんが）で、新しい人達の中には、なかなか入って行けない私を、神様はこんな風に自然な形で皆さんと交流出来る様、配慮して下さったのだとも思っています。

今回で、３回目のSLIM参加となりましたが、毎回、参加者の皆さんを通して、または、メッセンジャーを通して、本当にいろんな事を学び、どんな生き方を今後、自分がしていきたいのかが、見えてきます。大勢の、いろんな方々と、数日生活を共にする中で、いつも思うのは、私達クリスチャンが特別な存在なのではなく、私達が信じる神様が、特別で、だから、自分自身が無理して頑張って、一生懸命聖く正しく生きる必要はないんだ、自然体なままの自分でいれば、それでいいんだという事。

恵みによって救われた私達なのだから、努力によって、聖くなれる筈がないという事を忘れがちな私ですが、SLIMに参加する事で、いつも、恵みの中に引き戻されます。本当に、今の私にとっては、貴重な居場所です。これからも、もっともっと多くの方々が、SLIMを体験して欲しいです。「お茶処」にも、どうぞ来て下さいね。

CSを担当して

石塚雄司&絵里子
シュトゥットガルト日本語教会

すべてのクリスチャンにとって、修養会で、信仰が励まされ、成長することは、大きな恵みであり、大切なことだと思います。しかし、小さい子供がいる家族にとっては、そのような場に参加することが色々な理由で難しい場合があります。安心して子供を預けられる場がないと、親が結局子供の面倒をみるだけで　、せっかく来た集まりのプログラムに参加できずに終わってしまい、子供にとっても退屈な思いをさせてしまうかもしれません。SLIM14では、新しい試みとして、小さいお子さん達がいらっしゃる方々も参加できるように、又、子供達も神様の御言葉に触れ、信仰の種が蒔かれるようにと、子供のためのプログラムが行われました。

子供プログラムは、食事と自由時間以外の全体プログラム中、別室で行われました。参加したのは２–６歳の元気な子供達。合計１０回のセッションとなり、讃美、聖書のお話、お祈り、工作、ゲームなどを通して、天地創造について楽しく学びました。感謝なことに、１０名以上の奉仕者が与えられ、毎回２–３人の大人と、子供たちでプログラムを進めることができました。

奉仕者の方々はそれぞれ違う様々な賜物、個性を用いて子供達を愛し、仕えて下さいました。

また、中高生科のお姉さんたちとも、最後の全体集会で賛美の発表の機会が与えられ、子供達にとっても良い刺激と励ましになりました。私達の子供達は、SLIMから帰ってからも写真を見ては、奉仕して下さった先生方の名前をうれしそうに言ったり、みんなで習った歌を、今でも大きな声で歌って、楽しかった時を思い出しています。お天気にも恵まれ、シャボン玉遊びや、近くのジェラート屋さんに行ったのも良い思い出になりました。

今回、子供たちも、SLIM１４に参加し、キリストの愛を多くの方々を通して触れる事ができ、新しい友達にも出会い、楽しい時を過ごせた事は、彼らの信仰が芽生え、また成長していくためにかけがえのない経験になったと感じました。これからのSLIMでも、より多くの子供とその親の方々が神様に恵みとチャレンジを受け、成長出来るようにと祈ります。

SLIM14に祈りで参加

ユーティライネン陽
OVMCフィンランド・執事

SLIM13の終了と同時に、SLIM14に備えて祈っていく祈りメイトが結成されました。毎月集まったこの祈りのチームは、まさしくひとつのスモールグループとなり、SLIMが目指すサーバントリーダーシップの実践の場でした。私も、このSLIMに何らかの形で関わっていきたい、その思いで祈りメイトに加わりました。

大会の準備過程を実行委員会から逐一報告を受け、それに沿って祈っていくのは私自身がSLIMの大会をとても身近なものに感じることができ、大会開催中ですら祈りのリクエストをもらい、心はサン・ペッレグリーノ。祈りという欠かすことのできないものをもって、大会や実行委員会の一人ひとりを支えるというわくわくするような奉仕をさせていただきました。

大会のためにはもちろん、ヨーロッパで尊い働きをなさっている先生方のため、それぞれの教会のため、はたまたビザや結婚などかなり個人的な祈りの課題や分かち合いも飛び交い、笑いや突っ込みの耐えない楽しい祈りチームでした。さて、次は２０１５年のSLIMに向けて祈りを開始です！

プログラム担当実行委員としての初奉仕

大井阿貴子
バルセロナ日本語教会・役員

SLIM実行委員&祈りメイトとして、このSLIM Conferenceに関わることが出来、感謝でいっぱいです。祈りメイトとして、メンバー達とSLIMのことそして個人的な祈りの課題を共に祈りながら、どれだけ励まされたことでしょう。祈りを通して、神様との深い交わり、神様が心の王座に座って下さるとはこんなにも心強いことなんだということを体験する恵みの時間でもあり、またお互いに仕え支え合うということを実感する時でもありました。

また実行委員としてプログラム担当をさせていただきました。皆でどういうプログラムが良いか探っていく間、生みの苦しみもありましたが、神様が用意して下さっていた祝福の期間中、そして今もじわじわと味わっています。

1日目、きちんとスケジュール通りプログラムが進むかを気にし過ぎるあまり、自分で時間をコントロールし始めていたところに、中野先生のメッセージを通して、「まず御霊に満たされていますか？」という問いがありました。「あーそうか。私達がやっているのではなく、神様が導いて下さっているのだから、お任せすれば良いんだ」ということを気づかされ、とても楽になり自由になりました。

そして期間中、体調を崩したりもする中、「もっと私にゆだねなさい」と何度も語られました。また「失敗しても何度でも立ち上がることができる。あなたを見捨てない。私を愛しますか？私はあなたをこんなにも愛しているんだよ」と、次々と豊かに語って下さいました。いつのまにか、自分の力でどうにかしようとしてしまう私を、変わらない愛で満たして下さり、もっと私にゆだねさいと言って下さる神様。祈りを通してとめどなく豊かに語って下さる神様。この神様と共に歩む喜びを、伝えていく者として、日々作り変えられていきたいなと思います。

中高科を担当して

加藤たくみ
OVMC　Finlandゾーン牧師

今回は、SLIM初の中高科現場奉仕を3人の姉妹たちと共にさせて頂きました。私達の教会でも、近い将来、日本と世界に良い影響力を持つ、若者リーダーを「どのように、主のものとして、仕える者として建てあげ、遣わすか？」ということを目標としています。

今回、参加者一人一人に対し、一人の奉仕者がよりそい、個を知り、知ってもらうことからスタートしました。限られた時間の中で、主からゆだねられた若い魂にどう仕えるか、話し合い、祈りあい、集会前から参加者と連絡を取りあいました。イエス様の愛をどのように示していくか、「自分自身が、ありのままで受け入れられる場づくり」「本音の関係づくり」を目指しました。

また、全員が、自分に与えられた良いものをもって参加し、それぞれが、クリエイティブな発案と自主的な行動を促進できるようなプログラム作り、また、救いに預かっていない人たちを考慮し、福音をハッキリと告げる時をもうけました。

そんな中で、青年奉仕者の皆さんは、自身の持てる全てを主に捧げ、中高生の皆さんに仕えられました。しかし、それは簡単な事ではありませんでした。途中、全員が不真面目な態度を取り続け、指示に従わない状況が訪れました。私は、青年奉仕者に全てを委ねていましたが、あまりにも収拾のつかない状態に、このまま放置しておくべきかどうか、主に祈りました。

祈っている間、大会直前、仕事を終えて帰宅し、深夜スカイプ会議をし、一人一人のためにとりなしをしてきた青年奉仕者の主への献身と中高生参加者への真摯な思いが私に迫ってきました。そして、この愛は、参加者をスポイルするものではなく、たてあげる愛であることを思い、私は、どれほど奉仕者の青年たちが、主の愛で仕えてくれているか、そしてその愛をどうして受け取れないのか、真正面から中高生の本音の心に飛び込み、その態度を戒めました。

このような出来事の後、一人の求道中の学生が救いを受ける恵みに預かり、また、「自分が自分のままでいられたことが嬉しかった。」「聖書を皆で読むとこんなにも楽しかった」「これから、礼拝に積極的に参加したい」などという感想を聞けたことは、「愛を伝える人　キリストを身にまとって」というテーマにふさわしく青年奉仕者たちが「神を愛し、自分を愛するように隣人を愛しなさい」というみ言葉を実践した証です。

また、奉仕者の中には、仕えさせて頂いた事によって、信仰生活に新たな力が与えられる恵みを受けた人もいました。私自身は、ゴールを目指しつつ途中で妥協、諦めてしまう弱さ、また、主が信頼されているように青年奉仕者や中高生参加者を信頼し、主に委ねきらない弱さを示され、悔い改め、ここを整えられるチャレンジを受けました。

そして、こんな私を、みんなが、ありのままで受け入れるという、神の愛を示してくれた事に感動しました。すでに、日頃の継続した関係づくりや、来年の改善点も話し合われ、パワーアップしたSLIM15の中高科が主にあって期待されます。これからの日本や世界を担う青年や若者たちのために共に祈り備えていきましょう。栄光在主